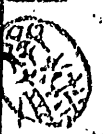


海軍大臣



軍事總監



聯隊機密第五六號



秘

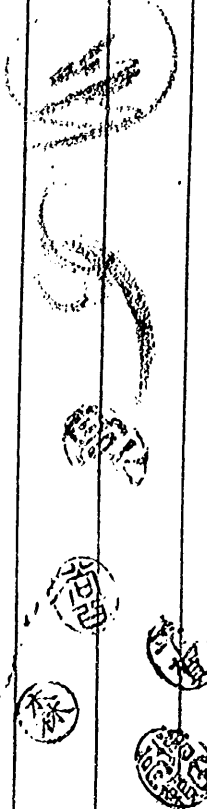
別張海上休我地域協定ニ関スル島村  
少將報告及進達候也

明治三十八年九月二十日

聯隊機密隊長官東郷平



海軍大臣對長子爵東祐亨殿



海

軍

0714

聯隊長官

二戰次機密第一九號

海上休戰地域協定交渉類末報告

第二艦隊司令官 島村速雄



一會令期日、延引

本職九月十七日午前十時羅津浦港外ニ於テ露國海上  
 休戰地域協定委員露國艦隊司令官「マツセ」ヲ將上層見  
 スルヲ大艦辛、新高、曉曙ヲ率ヒ十六日午前十時合地点  
 ニ向ヒ松田灣ヲ飛テ産業航シ午後九時頃城津沖鷄  
 懸岩ノ南方ニ於テ我右舷約四千米突テ南過スル約三隻  
 ノ艦影ヲ認メ其一隻露國軍艦トシヤレシ似ルヲ以テ之レ  
 「マツセ」ヲ將ノ率テ露國艦隊ナシト推セシモ其兩航所  
 以對解不能シ久彼レ或ハ會令地長ヲ新浦ト誤認セヤノ疑  
 アリト以テ達上層、新高ヲ新浦ニ分遣シ若シ合地点於テ  
 露國艦隊ニ會ハハ本職、羅津浦ニ待ツアルトテ通信

0715

〇我カ提出案  
 露國委員來ルヲ待テ之ニ遊シ露艦ヲ見ス仍テ舞水端ノ  
 方向ニ南下シ新高復年ヲ待テ之ニ午後三時ニ至リ新高ノ  
 無線電信ヲ以テ露國艦隊ノ口ヤノ方ニ止及駆逐艦ニ復  
 新浦ニアリテ彼ハ新浦港内ノ口ヨリ港ヲ會合地矣ト云ル  
 訓令ヲ受テ居ルニ翌十八日朝羅津浦ニ來ル云々ヲ兼務ナリ  
 ト報告シ來リ右ノ如ク彼我委員ノ會見期日ハ日延引  
 二十八日早朝彼我艦隊羅津浦港外ニ相會シ交渉ノ後先  
 任艦ニ露國旗艦ヲ示シテ會見スルトナリ午前八時  
 分ヨリ彼我協定委員會議ヲ開始セリ  
 二海上休戰地域劃定及之ニ附帶スル條件ヲ就キ彼我提出  
 案

〇我カ提出案 (原唇ヲ英文トシ佛譯文ヲ添テ)

協約書

西曆千九百零五年九月日米國のボーツワースニ於テ日露講和  
全權委員ノ向ニ協定調印セラル休戦條款第五條至  
旨ニ基キ下名ノ日露海軍指揮官ニ表著ノ海上休戦地  
域ヲ劃定スルコトニ就キ各其受命ニ訓令依リ茲左ノ協  
約ス

- 一 浦口方面ニ於テ休戦地域界線ハ豆満江口トシテ南  
角ヲ接ス一直線トシ彼我海軍兵力ノ前記界線ノ南  
各五海里ノ地帯ニ入ル可カラス
- 二 黑龍江方面ニ於テ休戦地域界線ハツロシニ南角ノ南  
角ヲ接ス一直線トシ彼我海軍兵力ノ前記界線ノ南  
各五海里ノ地帯ニ入ル可カラス

三 本協約ハ本日即チ明治三十八年九月十八日ヨリ実施シ

平和条約實施サレ、迄効力ヲ有スルモノトス

右詔按トテ日露海軍指揮官代表者此署右ニモナリ

明治三十八年九月十八日

露曆千九百零一年九月五日

於羅津浦港外

○露國ノ提出案(原書英文)

海上休戰協約書

下各日露海軍全權委員ト在 其指揮官ヨリ受ケル  
權能ヨリ此ニ在ルコト協約ス

一 海上及陸岸ニ於ケル總テ海軍ノ戰鬥行為ヲ停止ス

二 西交戰國ノ海岸ヨリ三十海里ノ距離以内ニ於テ沿岸全

帶ニ地帯ヲ置キ各交戰國ノ海軍艦船ノ其交戰敵

國前記地帯ニ入ル可カラズ

0718

津輕海峡、宗谷海峡及対馬ノ西水道ハ特ニ海岸ヨリ四海里以内ヲ前記ノ地帯トシ中央部ヲ開放ス向宮海峡ノ最狭部ハ西支戰國艦船ニ共通ノ通路トス

北韓沿岸ニ於ケル海上休戰地域界線ノ一端ハ陸上休戰地域界線ノ海岸ニ來レル端末ヲ以テ定ム

三、前記西支戰國ノ沿岸地帯以外海面ハ西支戰國ニ共通ニ航海術トシ西支戰國ノ軍艦相會スルコトアルモ戰闘行為ヲナサズルモノトス

四、西支戰國ハ其交戰敵國ノ海岸附近ニ敷設スル水雷ノ位置ヲ相通知シ相互ノ危害ヲ除クモノトス

五、西支戰國ノ沿岸地帯以外海面於ケル海上捕獲停止サズトス

但し護衛艦ヲ附シテ商船ヲ拿捕シ免ルモノトス

六、人道ニ基キ薩哈噠島ニ於ケル窮民ヲニヨライフスクニ移ス  
タメ露國ハ浦ヲ斯德ヨリ二隻ノ運送船ヲコルサユフ及  
アキサントロスクニ送ルコトヲ得

七、人道ニ基キ堪察加半島ノ住民カ糧食及日用品ニ窮  
乏シ今右ニ週回シテ徑過セハ海上交通杜絶シ遂ニ餓  
死スルニ至ルノ故以テ露國ハ浦ヲ斯德ヨリ糧食日用  
品等ヲ搭載セリ運送船ヲハトロパロスクニ送ルコトヲ得

八、西交戦國ノ指定スル港ニ於テ全交戦敵國ノ領事ノ  
詔明書ヲ受ケ且戰時禁制品ヲ搭載セザル中並國  
ノ船舶ハ拿捕シ免ルモノトス

前記ノ條項ハ署名各目ヨリ實施シ休戰中其効力ヲ  
有スルモノトシ其詔按トテ西協定委員ハ茲ニ署名各  
モノナリ

西曆一九〇五年九月十日

三、交涉談判經過要領

彼我提出案、交換朗讀了り、其後本職ハ先ツ今回  
會見ノ目的ハ休戰各款第五條ニ基キ海上休戰地域  
ヲ劃定スルニアリテ、其以外ノ事項ヲ茲ニ併議スルハ彼我各  
員ノ權限以外ノ屬スルヲ以テ、凡テ武人的ノ複雜ヲ避ケ、最  
モ簡單ニ休戰地域界線ノ事ヲ協定スル事足ルヲ主張志  
ニ露國委員ハ、ハポーツウエニ決定サタル休戰各款ハ不  
備ノ莫アリテ、休戰ノ實施ニ依リテ、彼我ノ便益ヲ増ス  
能ハサルヲ以テ、爲シ得ル範圍内ニ於テ、休戰地域界線以  
外ノ條件ヲモ茲ニ規定シタシト要求シ、詰合ノ末、比  
較的精密ナル露國委員ノ提出案ハ、今ヲ逐條併議  
スルヲトセリ

四

0721



(一) 第一條ノ附議

本職ハ日露休戰條款決定ハ休戰即ハ戰門行為ノ  
停止ヲ意味シ休戰條款第三條ノ如キ之ヲ提議セリ  
シテ休戰地域界線ヲ劃定セリ戰門行為ハ自然ニ不  
可能トナルキヲ以テ茲ニ此條款ヲ置クノ必要ナシト主張シ  
露國委員之ハ合意ニ全條削除ニ決定ス

(二) 第二條ノ附議

因ニ此ニ本條ノ主眼ノ要項ナルヲ以テ彼我ノ抗論爭議  
最モ長キ直リ交渉ノ約四時間ヲ費セリ

本職ハ本條ヲ就キ海國ニ依リ精細ニ露國委員ノ說明ヲ  
受ケタル後之ニ對シテ我提議案ヲ出シ過去海戰ノ結果  
海上凡テ帝國海軍ヲ制壓セルカ故ニ現在亦彼我海  
軍兵力ノ權衡ニ見ルモ我提出セル休戰地域界線頗

小島等ミテ休戦ニ依テ身ニキ露國海上ノ利益ヲ縮サズモ  
 ニアラザルニ反シ露國ノ提出案本条ノ如キハ彼我海軍ノ  
 勢力同等ナル場合外適用スルキモノニアズ若シ貴案  
 如ク中向ノ共通ノ中立地帯ヲ置ラトキハ現ニ我海軍カ海  
 上ヲ制セルニ自由ノ航海トシ我國ノ商船ハ貴國艦隊  
 拿捕ニ遇フコト多キニ至リ変態ヲ生スルコト主張シ且  
 ヲ露國提出案本条ノ如キハ複雑ニシテ簡單ナク西交  
 戰國ノ沿岸三十海里以内ノ地帯ヲ設ケ其以外ニ於テ廣  
 大ナル兩國艦船ノ共通ノ航海面ヲ置カハキハ當ニ其先  
 例ヲ見ザルニシテ多ク假令戰鬥行為ハ停止シアルモ休戦  
 中西交戰國ノ軍艦カ海上ニ遭遇スルコトアルカ如キハ休  
 戰ノ主旨ニ違背シ如何ナル誤解ヲ惹起スルキヤ否國ニ  
 不故ニ貴國提出案ニ全然同意ニ能ハサル旨ヲ反覆

五

0723

諒也セリ

右對シ露國委員ハ貴國ノ如ク休戰地域界線ヲ以テ我  
領海ヲ封鎖サルトキハ海上捕獲ノ尙ホ停止セシムル爲メ  
貴國ノ海軍ハ任意ニ捕獲ヲ爲シ得ルニ反シ我海軍ハ  
是迄時々虚ヲ見テ出動シ貴國ノ運送船ヲ脅カ  
シ或ハ商船ヲ拿捕スルヲ得タル利益ヲ全然放棄スルコ  
トナリ(現ニ二月前我水雷艇ハ海馬島附近ニ至リテ商船  
ヲ捕獲セシトアリ)之レガ爲メ業韓等ニ於ケル貴國ノ運送  
船ハ自由安全ニ航海シ得ルに至ラシ今日ト雖モ我艦船  
ハ必スモ遠ク出動シテ宗谷對州海峡等ヲ通過シ得  
ルヤ否モ若シ此ノ如ク界線ニテ封入サルトキハ却テ休戰  
ニ依リ確實ニ封鎖サルノ事トナルヘシ故ニ休戰ニ依テ  
得ラルキ彼我ノ利益ニ不均等ヲ生ス此兵ニ於テハ或

0724

程度迄西文戰國均露スルヲ至当ト認ム且ウ貴案ノ休  
 戰地域界線ヲ以テ我領海ヲ全然封鎖サルカキ事  
 國ノ射面上忍フ能ハサル所ナシト更ニ原案ヲ修正シ臨  
 領沿岸ノ地帯ハ其俟三十哩以内トシ貴國沿岸ノ  
 地帯ハ百哩以内ニ擴張シ其間ニ共通ノ中立海面ヲ置  
 カシトシ全意セシコトヲ希望スル旨ヲ詳述セリ  
 右ニ對シ本職ハ貴意海上ニ於テ我捕獲權ノ不平等  
 ナカキ之レ現下ノ實狀ニテ假令貴國艦船ハ時々  
 露ヲ見テ出動シ得ルモ之レ俾フ危険ヲ抱カサル可カラ  
 ズ貴國カ封鎖ノ状態ニアルト過去海戰ノ結果又戰  
 西國地形上ノ紐ラシムモノニテ巴ムヲ得サル次第ナリ本  
 案休戰地域ヲ劃定スルノ主旨ハ現狀ヲ維持シ戰門行  
 爲ヲ停止スルニテ現狀ヲ變化スルキモノニアラス貴案ノ如  
 六

キ相互ノ便益ヲ得方爲大現狀ヲ全ク變化スルモト認ム  
且ツ一定ノ界線ヲ以テ境界トシ彼我艦船ノ相近接ス  
ルヲ避ルハ最モ休戦ノ主旨ニ適合スルヲ以テ貴下ノ  
修正案ニ同意ヲ表シ難シ但シ休戦地域界線  
ニ依リ行動区域ヲ最少ノ制限スル爲メ貴國ノ作面ノ突  
スルコトハ之ヲ諒スルヲ以テ當方ニ於テモ之ニ對シテサ  
對酌ヲナスヘト又述セリ  
其後尙ホ前記ノ事項ニ就キ救用ノ抗論ヲ重ニスルハ  
露國委員ハ遂ニ一定ノ界線ヲ設クンコトヲ讓歩シテ  
セシキ將自ラ海圖ニ於テ海面ヲ分劃スルノ界線ヲ描  
キ其區劃ニ合意セシコトヲ要求セリ  
然レ右第一ノ修正案ハ休戦中我カ利害ニ關係ス  
ル處方ニ至ル尙ホ露國艦船ノ行動区域ヲ過大ナリ

0726

國より之を今意スル下能ハリシモ、熟考慮スルニ休戦  
地域界線ヲ劃定スルハ、業轉方面等ニ於テハ我陸軍運  
送船等航海ヲ自由ニシ休戦中我利ニ処カザル  
ノコトナク我カ利害ト大ニ關係ナキ限リ露國ノ待遇ヲ保  
持セシムルコトハ平和克復ノ後ニ於テ却テ我ニ利アリト  
認メ随員ト熟議ノ末我ニ或程度迄讓歩スルニ決  
シ露國提出案ニ於テ露領沿岸ヨリ三海里ノ内亦  
線ヲ以テ休戦地域界線トスルニ承諾スル旨ヲ提議  
セリ

之ニ對シ露國委員及其隨員モ熟議ノ末更ニ露  
國委員ハ胸襟ヲ披キテ其衷情ヲ述ベ露國ハ休  
戦實施ニ依リ作戰ニ關係セザル限リ人道ニ基キ平  
和的利益ハ貴國ト均而施セント欲シ上海等ニ於テ商船

ハ戰時禁制品ノ外浦洋等入ルヲ得ルに至ラコトヲ希望  
スル海上捕獲ヲ停止セシムル如ク休戰地域界線  
ヲ包圍サレタマフニ其利益ヲ得ル能ハス加之休戰地  
域界線ニ依リ強ト封鎖ノ情態ニ陥リ艦隊ノ出動  
区域ヲ縮クセズ強ト令得ル所ナリ且軍國ノ体面ヲ  
保持スル本國政府ヨリ受ケタル刻念ノ主旨ニ及ビ委  
員トシテノ責任上大ニ却スルニ前記ノ均等ノ利益ヲ  
放棄スル以テ唯ク求ムル所ハ軍國ノ体面ニシテ以  
テ尚古貴方ノ熟考ヲ煩ハシタレトノ旨ヲ反覆詳述セリ  
右ニ對シ本職ハ貴意諒之ハ所アリ以テ貴方ニ於テモ  
大ニ讓歩ヲ為セリ沿海州一帯ノ海岸ハ現ニ我海軍  
ノ活動区域ニ屬シ其港灣ニ於テ貴國及中立國ノ  
商船ヲ拿捕セ最良ノ实例モアリ船ルニ貴方ノ讓歩

三因リ貴國ノ船舶ハ浦ヲ斯德ヲ任意ニ沿海州ノ沿岸ヲ  
 航過シ得ル利益ヲ得ラレタルモノニテ現存セル彼我海軍  
 兵力ヲ權衡上ヨリ打算スル貴國ハ此界線ニ満足サルヲ正  
 當ト認メサルヲ得ル者ヲ述ヘタリ  
 尚ホ其後双方胸襟ヲ披キテ内情等ヲ述ヘテ論議談  
 合ヲ重クスルニ容易決着セズ交渉時ヲ移シテ四時向  
 三及ヒ一時ト寧ク休戰地域界線ヲ劃定セサルヲ提議セシ  
 トセシモ若シ此界線ヲ定メスレテ單ニ戰闘行為ノミヲ  
 停止スルトキハ露國ノ艦船ハ任意ニ出動シテ我運送船  
 等ヲ脅カ博ルニ我々ハ毛頭得ル所ナキヲ以テ且亦界  
 線ヲ劃定スルノ必要ヲ認メ且ソレニ前提議ニ於テ露國  
 領下岸三海里以内ノ地帯ヲ彼レト許容スル以上ハ多  
 少之ヲ擴張シテ露國領内ヲ保タシムルニ五十歩百歩大



美キカラ信シ露國委員提出スル第三修正案ノ露國  
休戰地域ヲ一層偏ナシ便宜ノ経緯度依リ界線ヲ描  
キテ之ヲ提出セリ露國委員モ之ニ多ク修正アリ然テ  
先ハ合意スルコトナリ然レ最後至リ豆満江口附近  
於テ休戰地域境界ノ終端ヲ孰キ露國委員ハ其端  
末ハ陸上休戰地域界線ノ端末ト一致スルコト至当トモ  
昔ヲ主張シ差シ海上トモ其ノ地ノ尖ヲ定ムルハ陸上予  
陸軍側面ニ敵國艦船ノ来ルカ如キ状態ヲ来スヲ以  
テ陸上休戰地域劃定ノ後之ヲ決定セルトノ提議  
對シ我ハ海陸ノ休戰ハ必シモ一致セラルヲ以テ海上ノ海  
軍ノ之ヲ定ムルヲ至当トモ且ツ陸上休戰地域界線ノ  
劃定ヲ待ツトモ本全項ノ末々不定ノモノニテ本日より  
之ヲ実施スル能ハルノ不便ヲ残スヲ以テ是亦此之ヲ

決定スギコトヲ主張シ露國委員ノ隨員浦臼要塞陸  
軍参謀長ブードベルグ大佐等ハ類リ之ヲ反對セシモ本  
職之ヲ進志シテ露國委員ハ業緯四十二度ノ緯線ニ依リ  
シコトヲ申出テシモ我亦之ヲ任ケ更ニ露國委員ヲ本國  
ノ觀念止レ難キトコロアルヲ以テ妥協アリシコトヲ請ホシ  
テ我方ヲシテサシテ譲歩シテ今田ノ處ハ地兵羅津浦ノ  
東南ノロジヨシフ角ト決定スルコトニ一致セリ

三 第三條ノ涉議

又向宮海峡ノ最狹部ノ中立地帯トシテ決定セリ  
以上ノ涉議ニ依リ決定シタル海上休戰地域界線ハ即チ  
下記ノ本協約書ノ規定ニ依リシモノナリ

本職ハ第三條ハ第三條ニ於テ休戰地域界線決定下  
共ニ自然内城スヘキモノナルヲ述ベ露國委員モ同意

シテ全条削除ニ決定ス

(四) 第四条ノ涉議

露國委員ハ先ツ休戦中兩交戦國ノ艦船カ敷設水雷ニ罹ルコトアルカ如キハ休戦ノ主旨ニ反スルヲ以テ宜シク今日相通知シテ相互ノ危害ヲ減サスヘキモノナリト主張シ之ニ對シ本職ハ休戦ノ交戦ノ條法ヲ意味スルモノトシテ并ニ本条敷設水雷ノ位置ヲ相通知スルコトハ平和克復ノ後ニスルヲ至当トシ已ニ此件ノ関ヒテ我政府ハ平和克復ノ後之方々々彼我委員ノ會合地ニ及テ期日ヲ定ムル涉議アリタル筈ナルヲ述ヘ露國委員モ之ニ同意シ全条削除ニ決定ス

(五) 第五条ノ涉議

本職ハ第三条休戦地域界線ノ劃定セラル以上ハ

本条規定、必要ナキトモテ、此レ露國委員モ之ニ同意シ  
全条削除ニ決定ス

(六) 第六條ノ涉議

露國委員ハ薩哈連島窮民ノ情況ヲ此レ貴國ノ運送船ハ  
此等窮民ヲ對岸ノカストリール灣ニ移シ、アルモ全地ノ糧食モ  
家屋モナク却テ其窮困ヲ増加スルノ虞存スル人道ニ基キ  
露國運送船ヲ之ヲニコライフスクニ移ス、トニ同意ヲホメ  
タルモ本職ハ個人トシテ之ニ同情ヲ表スルモ此ノ如キトハ  
委員ノ權限以外ニ巨ムヲ以テ寧日政府ト政府ノ交渉  
ニ委スルヲ至当トスル者トシテ、此レ露國委員モ之レニ同意シ  
全条削除ニ決定ス

(七) 第七條ノ涉議

露國委員ハ先ツ堪察加半島ノ住民ガ已ニ三々年間

0733

糧食及日用品等供給ノ受ケル爲メ非常ノ窮乏ニ  
瀕シ而モ今更ニ週向リ経過セハ海上ノ交通杜絶シテ  
是等ノ住民ハ餓死スベキヲ以テ本邦人道上是亦共同  
意ヲ得タント述ヘ本職ハ之ニ對シ大ニ同情ヲ表セタ  
是亦前奉トシ標榜限以外ニ且ルヲ以テ本國ノ歸着  
ノ後狀件ニ就キ充分ノ力スベキ者ヲ述ベタルモ露國  
委員ハ海上ノ交通直ニ杜絶スルヲ以テ此ノ如キ餘裕ヲ  
存セス且少毛頭作戰上ニ關係セザルトナリ人道ニ  
基キ貴官ノ責任ヲ以テ之ヲ認諾アリタント切願スル  
ヲ以テ本職ハ遂ニ休戰條件トシテ之ヲ規定スルヲ拒  
絶シ本職自ラ責任ヲ負ヒテ浦ノ斯德ヨリ常々  
海峡ヲ通過シテノベトロバプロスキノ港ニ至ル糧食及日  
常品ノ如ク搭載セテ露國運送船一隻ノ通行免状ヲ

0734

交付スルコトシ露國委員モ之ヲ満足ヲ表シ本条全条  
削除ニ決定ス

(八) 第八條ノ涉議

本職ハ本条ハ休戦ニ何等ノ關係ヲ有セス余ノ向蹠  
以升ノ事ニシテ其ニ之ヲ協定スヘキノ限リニアラス且ツ假  
令本条ヲ規定シ西交戰國ノ一港ヲ指定シテ交戰敵  
國領事ノ證明書ヲ得タル中立國船舶ノ拿捕ヲ免  
許スルトスルモ浦シ斯德ガ軍港タル限リ之ヲ輸入スル貨  
物ハ大抵戰時禁制品ニシテ一品タリトモ禁制品アル其  
船舶ハ拿捕サルヘキノトス故ニ本条ハ如キハ之ヲ設クルモ  
強シド無効ナルベキトテ亦ハタルニ露國委員モ之ニ  
同意シ全條削除ニ決定ス

以上露國提出案公条ノ涉議ノ要領ニシテ我提出案

ニ対スヘキ第三條ノ決定ノ外自餘ノ各項ハ皆削除シテ後  
ニ交渉ヲナリ最後ニ本協約ハ本日ヨリ実施スルコト協定  
セリ

四、協約書ノ署名及會見ノ結了

海上休戦地域劃定ノ會議ハ此ニ全ク結了シ其決議  
ニ基キ露國委員ノ隨員ハ其協約書ヲ起草シ我  
隨員ハ之ヲ検査シ文章上ニ於テ多クノ修正ヲ加ヘ身  
向宮海峽ト中立トシ西文戰國ノ艦船ト共通トスルノ規定中  
ヨリ「西文戰國ノ艦船ト共通トスル」文句ヲ削除セリ且シ  
後日我カ便宜ニ從フテ解釋スル利益ト認メタルヲ以テナリ  
然レ後之レヲ複通シ清書シ當日午後三時彼我協定  
委員ト之ト署名セシ各其ノ一通ヲ取リ今時ニ彼我全權  
委任状ヲモ交換セリ即チ別紙ノ如シ

0736

次ニ彼我委員互ニ攀ケ會見ニ結テ相祝ニテ散會  
 此本職ハ我旗艦ニ皎リ次テ「エッセ」ノ將ノ訪向ヲ受ケテ  
 告別シ午後三時五分當隊ハ羅津浦港外ヲ発シ歸  
 途ニ就ケリ  
 其會見ニ参列セシ委員及隨員ノ人名左如シ

帝國

委員

島村海軍少將

隨員

秋山海軍中佐

隨員

山本海軍大尉

露國

委員 艦隊長官

「エッセ」海軍少將

隨員 浦波海軍少將

「アドベル」陸軍大佐

隨員 艦隊長官

「ボリス」海軍大尉

外露國總領事(前橫濱駐在)及書記長

名参列

三

(了)

0737



「エツセン」少將委任状 (原書佛文)

侍從武官海軍少將エツセン閣下ニ呈ス

陸海軍總指揮官リネーウツチ閣下ノ余ニ依リ閣下ハ

海上於ケル休戦ノ條件ヲ確定シ僥指揮官ノ認可ヲ

要セズテ自カラ議定書ニ記名スルヲ日本帝國海軍

總司令官東郷大將閣下ノ代表者タル島村少將上層

議スルノ權能ヲ委任セラル

千九百零九年九月十二日 (露曆)

浦塩斯德要塞指揮官

陸軍中將 某 自署

C738

海上休戦地域劃定之關スル協約書

各軍隊總指揮官ヨリ代表者トシテ相当ノ委任ヲ受ケ  
下ニ署名シタル島村海軍少將及吾セン海軍少將ハ左ノ如ク  
協約セリ

交戦國ノ海岸ニ沿ヒ左ノ如ク海上ヲ区劃ス

即チ界線ハ口チヲシテ南ヨリ起リ南東ニ廿哩ヲ走り  
北緯四十二度東至百三十六度ノ地矣北緯四十六度東  
至百四十度ノ地矣北緯四十八度東至百四十度ノ地矣北  
緯五十度東至百四十度ニ三分ノ地矣北緯五十一度四  
十分東至百四十度ニ三分ノ地矣等ヲ連接スルモノニ  
シテ此ヨリ北緯五十三度ニ七分東至百四十一度七分  
半ノ地矣ニ至ル南宮海峡ノ最狹部ハ中立地帯トシ察  
緯ハ再ビ北緯五十三度七分東至百四十一度七分半

ノ地兵ニ起リ北緯五十六度東至百四十二度ノ地兵業  
緯五十六度東至百四十八度ノ地兵業ヲ經占守海  
峽ノ中央地兵ヲ過キ北緯五十九度五十分ノ距等圈ニ  
合ス

向宮海峡ノ最狹部ハ中立地帯トス  
西交戰國ノ海軍ハ互ニ前記ノ界線ヲ越スルヲ許サズ  
殊決議ハ四者存ノ當日ヨリ実施シ休戰期間其効力  
ヲ有スルモノトス

各代表者ハ此議定書ニ署名シ之ヲ證ス  
西曆千九百五年八月十八日

島村海軍少將 (自署)  
及之海軍少將

Protocol  
of the Conference establishing the  
Armistice on Sea.

The undersigned Delegates Rear-Admiral  
Shimamura and Rear Admiral Jessen,  
being correspondingly authorized by their  
Commanders-in-Chief have agreed as  
follows:

Along the coast of the belligerent  
countries, the sea is divided as  
follows:

From Rodionow Point, the line of  
demarkation goes 30 miles S E, then  
to the Point  $42^{\circ}\text{N}-136^{\circ}\text{E}$ , then to  
 $46^{\circ}\text{N}-140^{\circ}\text{E}$ ; then to  $48^{\circ}\text{N}-141^{\circ}\text{E}$ , then  
 $50^{\circ}\text{N}-141^{\circ}23'\text{E}$ , then  $51^{\circ}48'\text{N}-141^{\circ}23'\text{E}$ , then  
goes the neutral part of Tartar Strait

0741

till the point  $53^{\circ}27'N - 141^{\circ}27.5'E$ , further  
the line goes to  $56^{\circ}N - 142^{\circ}E$ , then  $56^{\circ}N -$   
 $148^{\circ}E$  then goes in the middle point of  
Kuril Strait and follows the parallel  
 $50-50'N$ .

The narrow part of Tartar Strait is  
neutral.

Neither Russian nor Japanese naval  
forces shall be permitted to pass the  
above mentioned line.

The present is obligatory for both con-  
tracting parties.

The above mentioned regulations are  
to be considered in action from the  
day of the signature and remain  
obligatory during the Armistice.

In testimony whereof, the Delegates  
sign the present Protocol

Made on board the "Rossia"  
the 18<sup>th</sup> September 1905.

H. Shimamura  
Rear-Admiral Tessen. Rear Admiral

A S. E. Contre-amiral de la Suite  
de Sa Majesté l'Empereur  
C. Tessen.

Conformément aux ordres de Son  
Excellence le general Lieneritch,  
Commandant en chef des forces mi-  
litaires de terre et navales, - vous  
êtes chargé d'entrer en pourparlers  
avec le délégué de S. E. Commandant  
en chef de la Marine Impériale  
Japonaise amiral Togo, l'amiral  
Siemamouira en vue d'arrêter les  
conditions de l'armistice sur mer,  
de le conclure et de signer person-  
nellement le protocole sans avoir  
recours à la confirmation du  
Commandant en chef.

Vladivostok, 25<sup>e</sup> Septembre 1905.

Lieutenant general J. Pospichy  
Commandant de la place forte.



0743

Свита Его Императорского  
Величества Командир-Адмиралъ  
Тессену.

Во исполнение повелений Главнокоман-  
дующаго всеми сухопутными и морскими  
силами, Генерала отъ Инфантерии Неме-  
вуса Вы уполномочиваетесь вступить въ  
переговоры съ уполномоченнымъ Главно-  
командующаго морскими силами Японии,  
Адмирала Того-Адмираломъ Сима-  
мура дабы выработать условия пере-  
мирия на морю; заключите таковое  
перемирие и лично подпишите прото-  
колъ, не исправлявая разрешения Главно-  
командующаго.

Крепость Владивостокъ Сентября 2 дня 1905г.

Командантъ Владивостокской  
Крепости, Генералъ-Лейтенантъ *Рубинъ*



0744

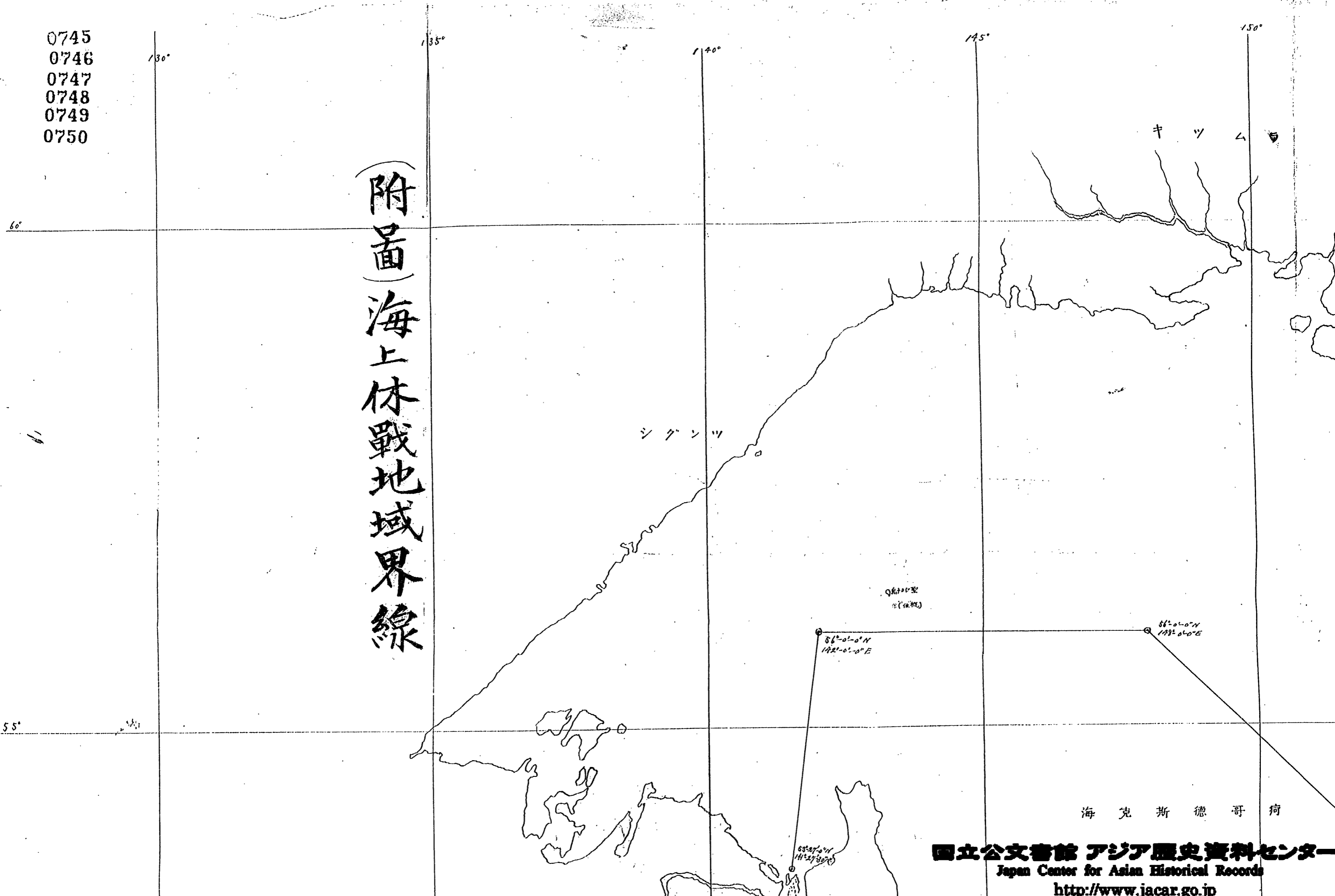
# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="655 663 1086 1128"><tr><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>5</td><td>6</td></tr></table>	1	2	3	4	5	6
1	2						
3	4						
5	6						
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め						
上記のとおり分割撮影した事を証明する。							

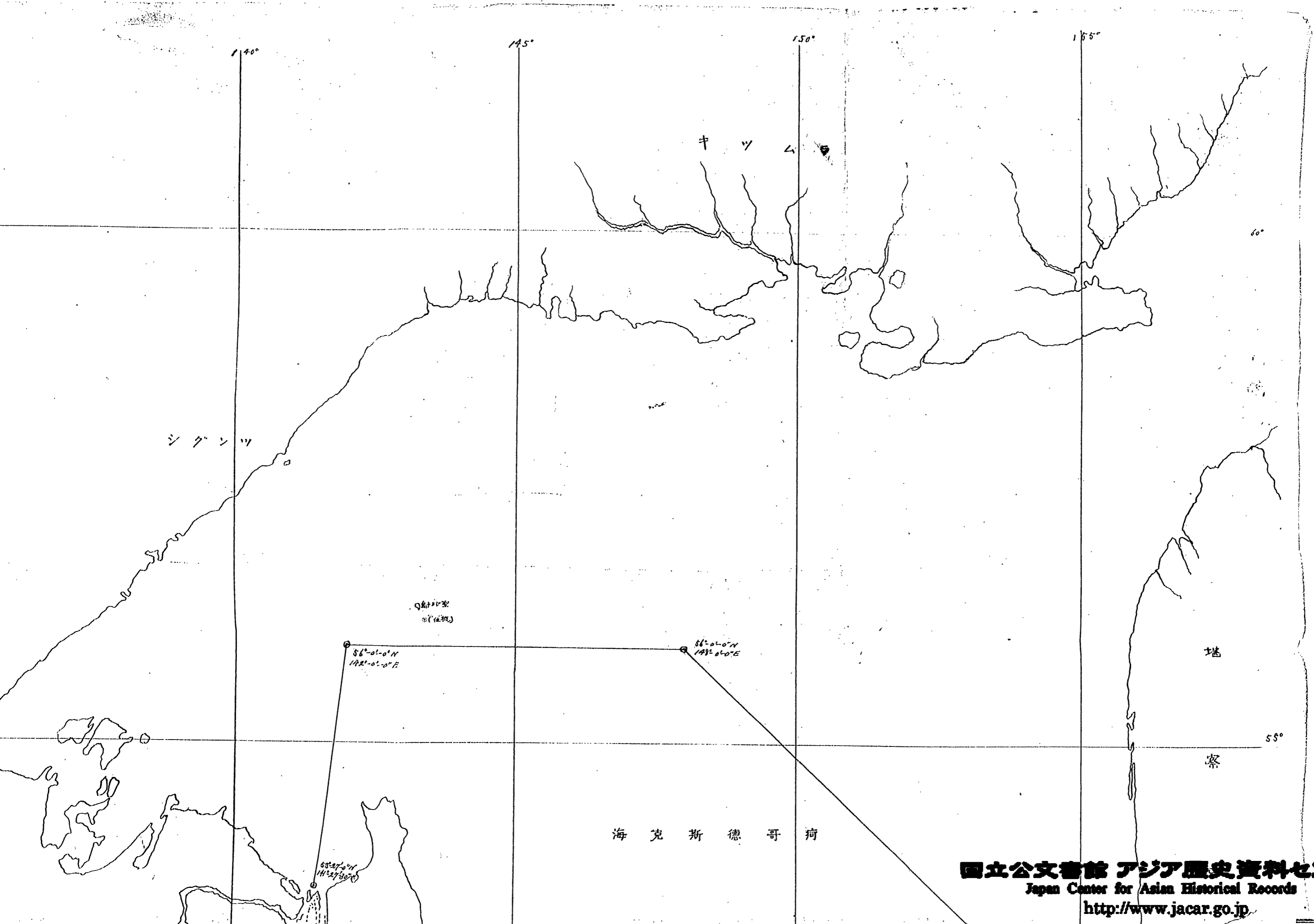


0745  
0746  
0747  
0748  
0749  
0750

附圖 海上休戰地域界線



海 克 斯 德 哥 荷



録

55°

50°

45°

56°-0'-0"N  
142°-0'-0"E

56°-0'-0"N  
142°-0'-0"E

海 克 斯 德 哥 荷

55°-0'-0"N  
142°-0'-0"E

51°-0'-0"N  
141°-0'-0"E

50°-0'-0"N  
141°-0'-0"E

48°-0'-0"N  
141°-0'-0"E

46°-0'-0"N  
140°-0'-0"E

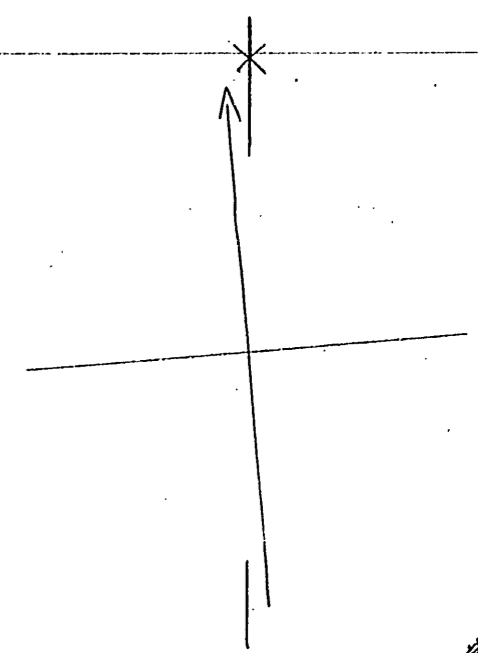
薩  
哈  
連  
島

龍

龍

沿

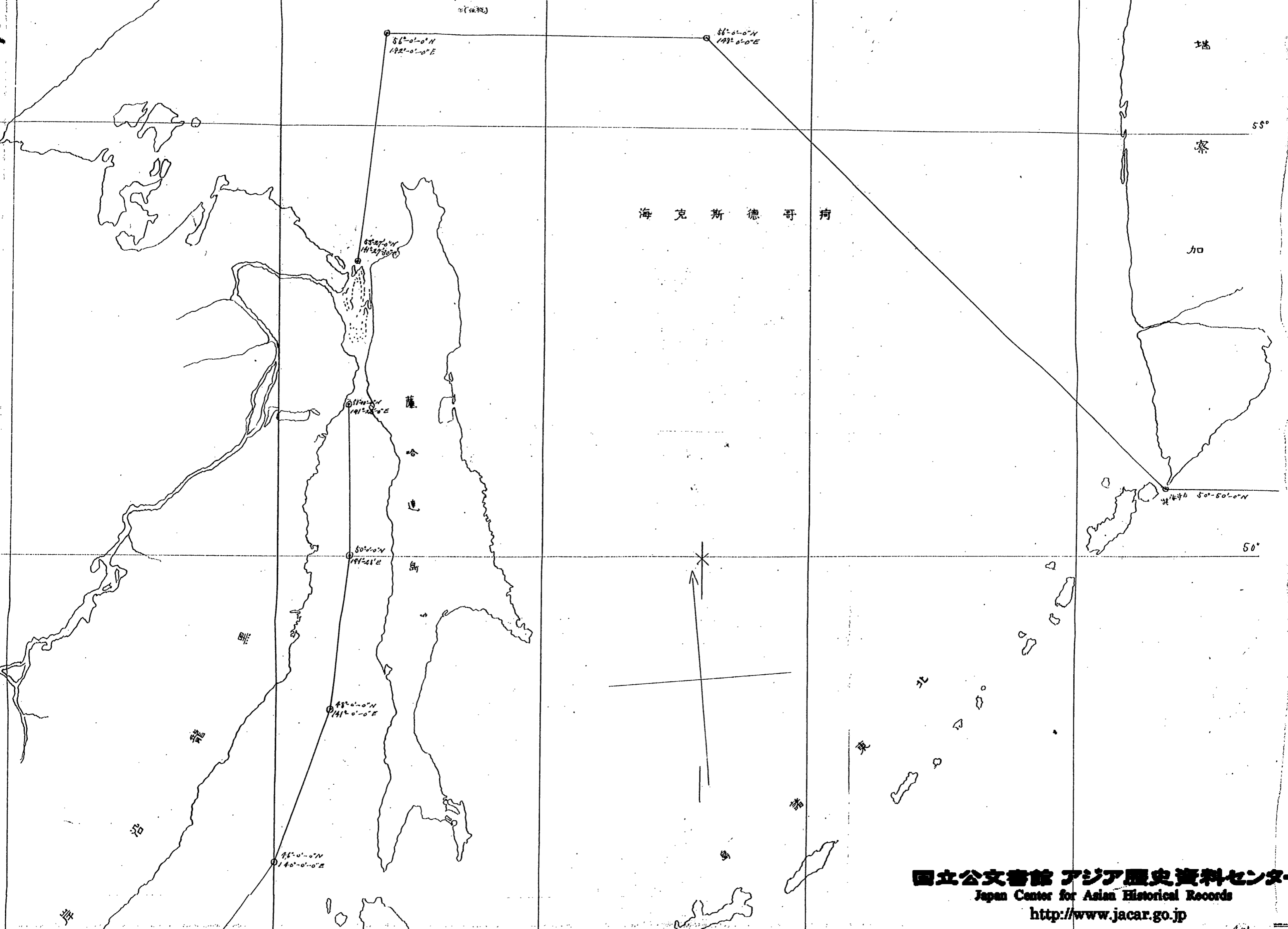
岸

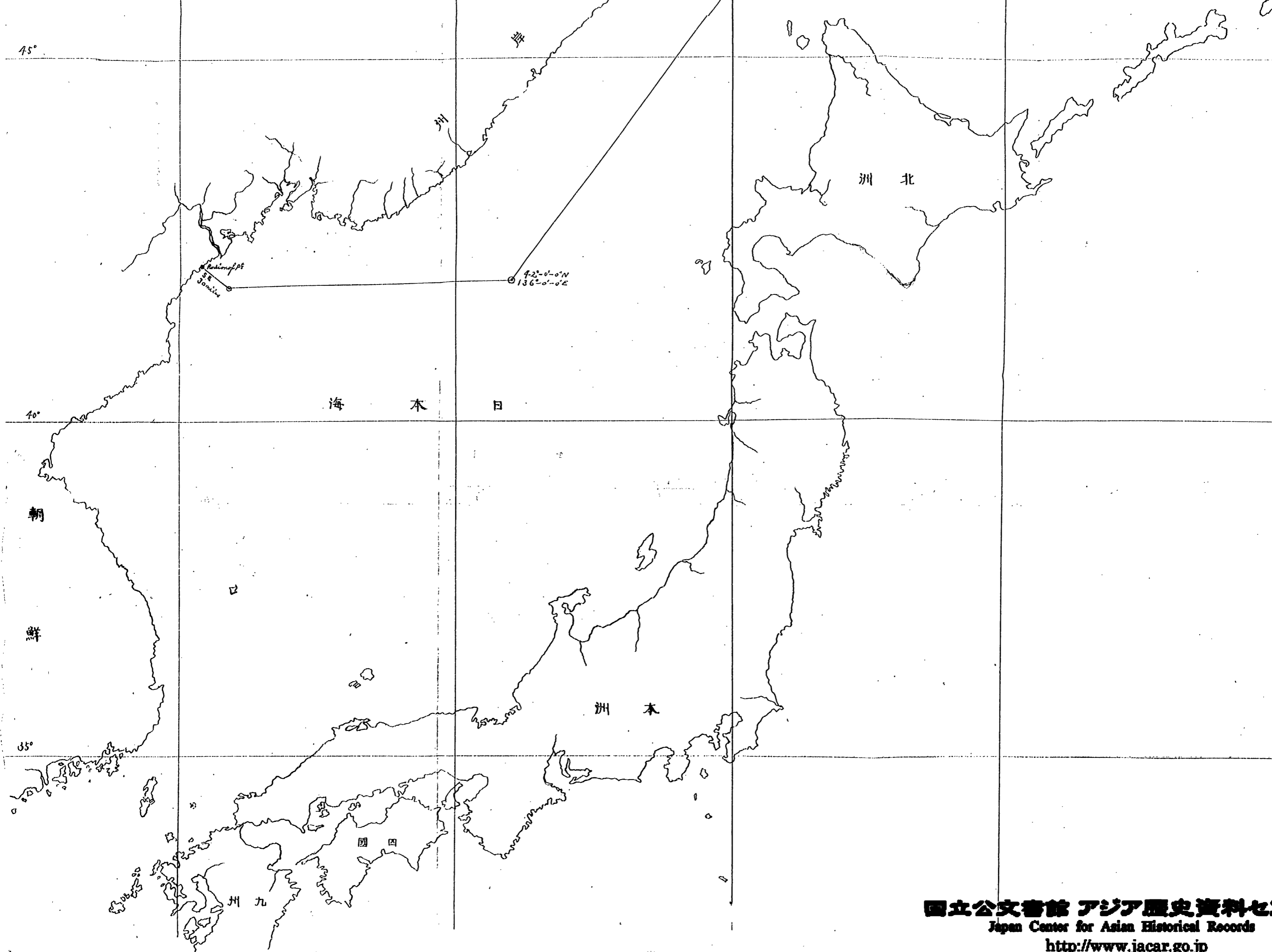


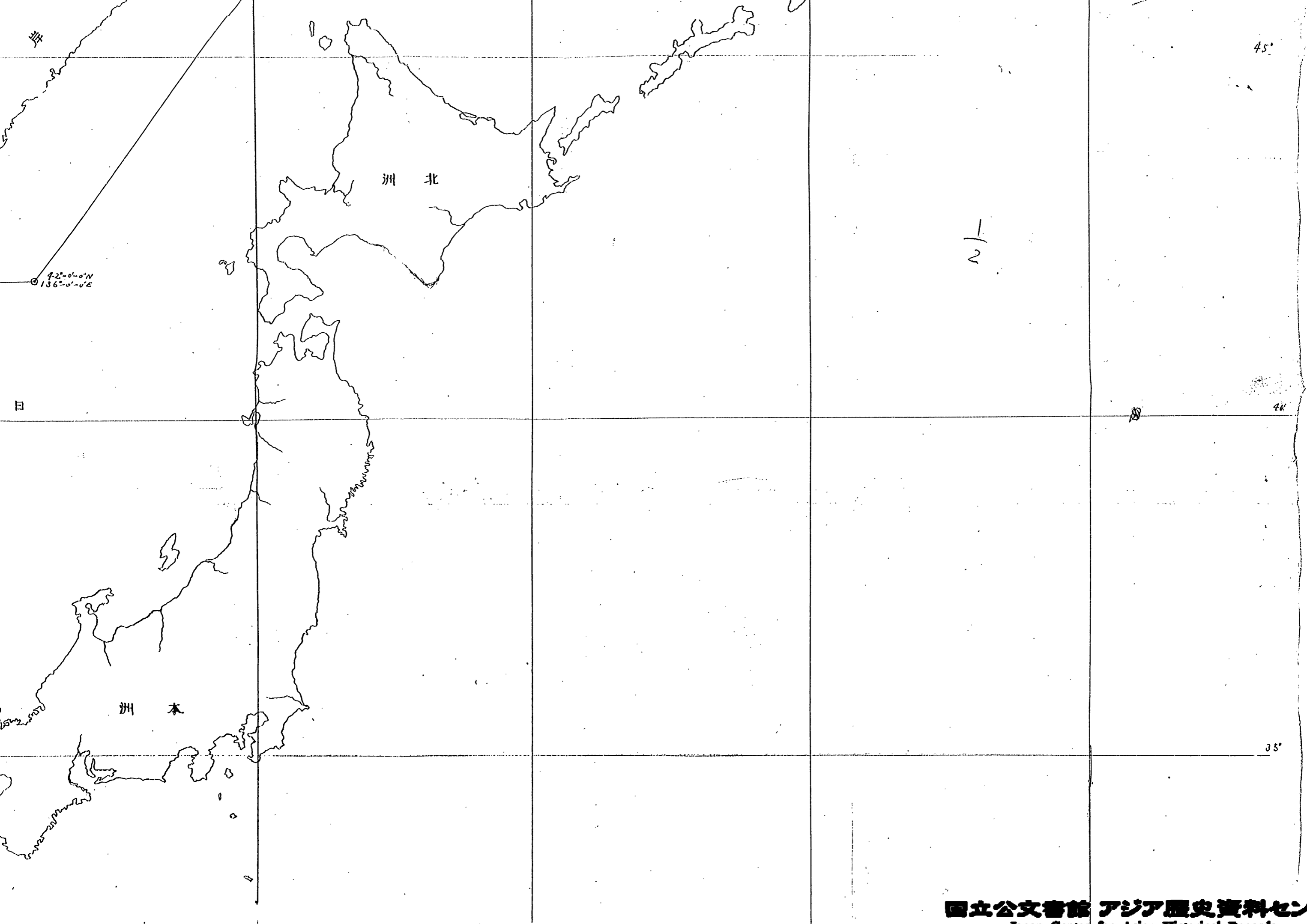
国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>







岸

北洲

本洲

日

42°-0'-0"N  
136°-0'-0"E

45°

44

35°

21

軍令部長

二戰次機密第九號

海上休戰地域協定交渉類未報告

第二艦隊司令官 島村速雄

秘

一會合期日、延引

本職九月十七日午前十時羅津浦港外ニ於テ露國海上

休戰地域協定委員露國艦隊司令官「ワッセ」少將會見

スルヲ大艦手新高曉曙ヲ率ヒ十六日午前十時會合地点

ニ向ヒ松田灣ヲ航シテ業航シタル処午後九時頃城津沖鷄

籠寇岩ノ南方ニ於テ我右舷約四千米突リ南過スル約三隻

ノ艦影ヲ認メ其一隻露國軍艦トヤレシ似タル以テ之

ヲ「ワッセ」少將ノ率テ露國艦隊ナリト推サシモ其南航スル所

以テ解不能ク彼レ等或ハ會合地点ヲ新浦ト誤認セルヤノ疑

アリト以テ連上ヲ新高ヲ新浦ニ分遣シ若シ令地ニ於テ

露國艦隊ニ會ハバ本職ハ羅津浦ニ待テ「ワッセ」少將通信

0751

スルヤ候シテ者隊ハ航ヲ續ケ翌十七日朝羅津浦ニ至リテ  
 露國委員來ルヲ待テ之ニ遊シ露艦ヲ見ス乃テ舞水端ノ  
 方向ニ南下シ新高復命ヲ待テ之ニ午後三時至リ新高ノ  
 無線電信ヲ以テ露國艦隊ノ口カノ旁ニ及駆逐艦ニ復  
 新浦アリテ彼ハ新浦港内ノ口カノ灣ニ會合地矣トシテ  
 訓令受ケ居ルニ翌十八日朝羅津浦來命スルヲ兼テ  
 ト報告シ來トリ右ノ如ク彼我委員ノ會見期日ト日長引  
 二十八日早朝彼我艦隊羅津浦港外ニ相會シ交渉ノ後先  
 任艦ハ露國旗艦ノ口カノ灣見スルニトナリ午前時  
 分ヨリ彼我協定委員會議ヲ開始セリ

二海上休戰地域劃定及之ニ附帶スル條件ニ就キ彼我提出  
 案

○我カ提出案 (原旨ヲ英文トシ佛譯文ヲ添テ)



協約書

西曆千九百五年九月日米國ボーツウニ於テ自露講和  
全權委員ノ向ニ協定調印セラル休戰條款第五條ニ主  
旨ニ基キ下名ノ日露海軍指揮官ニ表著ノ海上休戰地  
域ヲ劃定スルコトニ就キ各其受タル誑令依リ此ニ於テ協  
約ス

- 一 浦子方面ニ於テ休戰地域界線ハ豆滿江口ト「森口ト」  
角ヲ接ス一直線トシ彼我海軍兵力ハ前記界線ノ南並  
各五海里ノ地帯ニ入ル可カス
- 二 黑龍江方面ニ於テ休戰地域界線ト「アムル」角「多」  
角ヲ接ス一直線トシ彼我海軍兵力ハ前記界線ノ南並  
各五海里ノ地帯ニ入ル可カス

三 本協約ハ本日即チ明治三十八年九月十八日ヨリ施行ス

平和条約實施ガレ迄効力ヲ有スルモノトス  
 左記扱卜テ日露海軍指揮官代表者此署在スルモノナリ  
 明治三十八年九月十八日  
 露曆千九百零一年九月五日 於羅津浦港外

○露國ノ提出案 (原書英文)

海上休戰協約書

下名日露海軍全權委員各其指揮官ヨリ受ケル  
 權能ヨリ此ノ条如ク協約ス  
 一 海上及陸岸ニ於ケル總テ海軍ノ戰鬥行為ヲ停止ス  
 二 西交戰國ノ海岸ヨリ三十海里ノ距離以内ニ於テ沿岸全  
 帶ニ地带ヲ置キ各交戰國ノ海軍艦船其交戰敵  
 國前記地带ニ入ル可カラス

津輕海峡宗谷海峡及対馬ノ西水道ハ特ニ海岸ヨリ四海  
 里以内ヲ前記ノ地帯トシ中央部ヲ開放ス向度海峡ノ  
 最狭部ハ西交戦國ノ艦船ニ共通ノ通路トス  
 北韓沿岸ニ於ケル海上休戦地域界線ノ一端ハ陸上休戦  
 地域界線ノ海岸ニ来レル端末ヲ以テ定ム  
 三、前記西交戦國ノ沿岸地帯以外海面ハ西交戦國ニ  
 共通ノ航海面トシ西交戦國ノ軍艦相會スルコトアルモ  
 戰鬥行為ヲササルモトス  
 四、西交戦國ハ其交戦敵國ノ海岸附近ニ敷設スル  
 敷設水雷ノ位置ヲ相通知シ相互ノ危害ヲ降クモトス  
 五、西交戦國ノ沿岸地帯以外ノ海面於テ海上ノ捕獲停止  
 止サレトモ無シ

但シ護衛艦ヲ附シテ商船ヲ拿捕シ免ルコトアル

六、人道ニ基キ薩哈連島ニ於ケル窮民ヲヨライヌクニ移ス  
タテ露國ハ浦ヲ斯德ヨリニ隻ノ運送船ヲユルサヌイ及  
アキサドワスクニ港ニ送ルコトヲ得

七、人道ニ基キ堪察加半島ノ住民カ糧食及日用品ニ窮  
乏シ今恰ニ週回ノ徑過セバ海上交通杜絶シ遂ニ餓  
死スルニ至ルノ故以テ露國ハ浦ヲ斯德ヨリ糧食日用  
品等ヲ搭載セテ運送船ヲハトワロスクニ送ルコトヲ得

八、西交戦國ノ指定スル港ニ於テ又交戦敵國ノ領事ノ  
詰明書ヲ受ケ且戰時禁制品ヲ搭載セザル中其國  
ノ船舶ハ拿捕シ免ルモノトス  
前記條項ハ著各ヨリ實施シ休戰中其効力ヲ  
有スルモノトシ其詔按トテ西協定委員ハ茲ニ署名ス  
モナリ

0756

西曆一千九百五年九月十日

交涉談判經過要領

彼我ノ提出案ヲ交換即讀アリリクニ後本職ハ先ツ今回  
 會見ノ目的ハ休戰條款第五各基キ海上休戰地域  
 ヲ劃定スルアリテ其以外ノ事項ヲ茲ニ詳議スルハ彼我  
 員ノ權限以外ニ屬スルヲ以テ凡テ武人的ノ複雜ヲ避ケ  
 毛簡單ニ休戰地域界線ノミヲ協定スル事足ルヲ主張セ  
 ニ露國委員ハホーツマズ之ニ決定サタル休戰條款ハ不  
 備ノ矣アリテ休戰ノ實施ニ依リテ彼我ノ便益ヲ増ス  
 能ハサルヲ以テ為シ得ル範圍内ニ於テ休戰地域界線以  
 外ノ條件ヲ是茲ニ規定シタルト要求シ詎今ノ末比  
 較的精密ナル露國委員ノ提出案ハ今ヲ逐條詳議  
 スルコトナレリ

0757

(一) 第一條ノ涉議

本職ハ日露休戰條款決定ハ休戰即チ戰闘行為ノ  
停止ヲ意味シテ戰闘條款第一條ノ如キ是之ヲ規定セリ  
ノニテ休戰地域界限等ヲ劃定セテ戰闘行為ノ自然ニ不  
可能トセリキヲ以テ茲ニ此等理ヲ置クノ必要ナシト主張シ  
露國委員等之ニ全意ニ全條削除ニ決定ス

(二) 第二條ノ涉議

因記ス本年ノ主眼ノ要項ナルヲ以テ彼我ノ抗論爭議  
最モ長キ事ト交際シ約四時間ヲ費セリ

本職ハ本条ヲ就キ海國ニ依リ精細ニ露國委員ノ説明ヲ  
受ケル後之ニ對シテ我提出案ヲ出シ過去海戰ノ結果  
海軍力ノ權衡ニ見ルニ我提出セル休戰地域ノ界限頗  
海軍力ノ帝國海軍ヲ制壓セルカ故ニ現在セル彼我海

必要当ミテ休戦ニ依テ得ルニキ露國海上ノ利益ヲ縮サス  
 ノアラザルニ及シ露國ノ提出案本々如キハ彼我海軍ノ  
 勢力同等ナル場合外適用スヘキモノニアズ若シ貴國  
 如ク中尙ノ共通ノ中立地帯ヲ置クトキハ現ニ我海軍  
 上ヲ制セルヲ自由ノ航海ナル我國ノ商船ハ貴國艦隊  
 拿捕ニ遇フコト多キニ至ルニ至テ變態ヲ生スベシト主張  
 ヲ露國提出案本々如キハ複雑ニシテ簡單ナク西交  
 戰國ノ沿岸ニ海里以内ノ地帯ヲ設ケ其外ニ於テ廣  
 大ナル兩國艦船ノ共通航海面ヲ置クカ如キハ尙ニ其  
 例ヲ見サレニキ多ク假令戰鬥行為ハ停止シアルモ休戰  
 中西交戰國ノ軍艦カ海上ニ遭遇スルトアルカ如キハ休  
 戰ノ主旨ニ違背シ如何ナル誤解ヲ惹起スヤヤ國  
 不故ニ貴國提出案ニ全然同意ニ能ハサル旨ヲ反覆

五

0759

詳述セリ

お封鎖露國委員ハ貴軍ノ如ク休戦地域界線ヲ以テ我  
領海ヲ封鎖サルトキハ海上捕獲ノ高止セサル為メ  
貴國ノ海軍ハ任意ニ捕獲ヲ爲シ得ルニ及シ我海軍ハ  
是迄時々虚ヲ見テ出動シ貴國ノ運送船ヲ脅ガ  
シ或ハ商船ヲ拿捕スルヲ得ル利益ヲ全然放棄スルコ  
トナリ(現ニ二月前我水雷艇ハ海馬島附近ニ至リテ商船  
ヲ捕獲セシトアリ)之レカ為メ業韓等ニ於テ貴國ノ運送  
船自由安全ニ航海シ得ルに至ラシ今日ト至モ我艦船  
ハ必スモ遠ク出動シテ宗谷対州海峡等ヲ通過シ得  
ザルニ至ラズ若シ此ノ如ク界線ニテ封入サルトキハ却テ休戦  
ニ依リ確實ニ封鎖サル事トナルヘシ故ニ休戦ニ依  
テ得ル(キ)彼我ノ利益ニ不均等ヲ生ス此兵ニ於テハ或

0760



程度迄西文戰國均認スルヲ至當ト認ム且ク貴案ヲ休  
 戰地域界線ヲ以テ我領海ヲ全然封鎖サルカキ軍  
 團射面上忍フ能ハサル所ナシト更ニ原案ヲ修正シ既  
 領沿岸ノ地帯ハ其俟三十哩以内トシ貴國沿岸ノ  
 地帯ハ百哩以内ニ擴張シ其間ニ共通ノ中立海面ヲ置  
 カシト今意セシコトヲ希望スル旨ヲ詳述セリ  
 右ニ對シ本職ハ貴意海上於テ我捕獲權ノ不平等  
 ナカキ之レ現下ノ實狀ニテ假令貴國艦船ハ時々  
 艦ヲ見テ出動シ辱ルモ之レ俾フ危險ヲ犯サル可カラ  
 ズ貴國ガ封鎖ノ狀態ニアルト過去海戰ノ結果又戰  
 西國地形上ノ紐ラシムモノニテ巴ハ得サル次第ナリ本  
 案休戰地域ヲ劃定スルノ主旨ハ現狀ヲ維持シ戰闘行  
 爲ヲ停止スルニ在リ現狀ヲ變化スルキモノニアラス貴案ノ如  
 六

キ相互ノ便益ヲ得テ方爲大現状ヲ全ク變化スルモク認ム  
且ツ一定ノ界線ヲ以テ境界トシ彼我艦船ノ相近接ス  
ルヲ避クハ最モ休戦ノ主旨ニ適合スルヲ以テ貴下ノ  
修正案モ同意ヲ表シ難シ但シ休戦地域界線  
ニ依リ行動区域ヲ最少ニ制限スル爲メ貴國ノ作間ノ  
スルコトハ之ヲ諒スルヲ以テ當方ニ於テモ之ト對シテサ  
對酌ヲナスヘト又述セリ  
其後尙ホ前記ノ事項ニ就キ救用ノ概論ヲ重ニスルハ  
露國委員ハ遂ニ一定ノ界線ヲ設クンコトヲ讓歩シテ  
セシキ將自ラ海圖上ニ於テ海面ヲ分劃スルノ界線ヲ描  
キ其區劃ニ合意セシコトヲ要求セリ  
然ルニ右第二ノ修正案ハ休戦中我カ利害ニ關係ス  
ル處ヲモ尙ホ露國艦船ノ行動区域ヲ過大ナシメ

0762

因之之合意スル下能ハリシモ既ニ考慮スルニ休戦  
地域界線ヲ劃定スルハ業經方面等ニ於ケル我陸軍運  
送船等航海ヲ自由ニ休戦中我ニ利スル処チカラサル  
ノミナズ我カ利害ト大ニ關係キ限リ露國ノ方面ヲ保  
持セシムルニトシ平和克復ノ後ニ於テ却テ我ニ利アリト  
認メ隨員ト熟議ノ未我ニ或程度迄讓歩スルニ決  
シ露國提出案ニ於ケル露領沿岸ヨリ三海里ノ界  
線ヲ以テ休戦地域界線トスルニ承諾スル旨ヲ提議  
セリ

之ニ對シ露國委員及其隨員モ熟議ノ未更ニ露  
國委員ハ胸襟ヲ披キテ其衷情ヲ述ベ露國ハ休  
戦實施ニ依リ作戦ノ關係セザル限リ人道ニ基テ平  
和的利益ハ貴國ト均而施セト欲シ上海等ニ於ル商船

ハ戰時禁制品ノ外浦洋等入ルヲ得ルニ至レトヲ希望  
スルモ海上捕獲ノ停止セザルニ如ク休戰地域境界線  
ヲ包圍サルニテ一ツモ其利益ヲ得ル純スル加ニ休戰地  
域境界線ノ依リテ封鎖ノ情態ニ陥リ艦隊ノ出動  
区域ヲ縮小セシメテ金得ル所ナク且軍國ノ体面ヲ  
保持スヘキ本國政府ヨリ受ケタル命令ノ主旨ニ冬委  
員トシテノ責任上大ニ困却スルニ前記ノ均霑ノ利益ヲ  
放棄シタル以テ唯々求ムル所ハ軍國ノ体面ニ止リ以  
テ尚古貴方ノ熟考ヲ煩ヒタレトノ旨ヲ反覆詳述セリ  
右對シテ本職ハ貴意諒之ん所アルヲ以テ貴方ニ於テモ也  
大ニ讓歩ヲ為セリ沿海州一帯ノ海岸ハ現ニ我海軍  
ノ作動区域内ニ屬シ其港灣ニ於テ貴國及中立國ノ  
商船ヲ拿捕セ最近ノ实例モアリ船中貴方讓歩

二因リ貴國ノ船舶ハ浦ヲ斯德ヨリ任意ニ沿海州ノ沿岸ヲ  
 航過シ得ルノ利益ヲ得ルモ、現存セシ彼我海軍  
 兵力ノ權衡上ヨリ、打算ニハ貴國ハ此界線ニ満足サルヲ正  
 當ト認メサルヲ得ル者ナリ  
 尚ホ其後双方胸襟ヲ披キテ内情等ヲ述ヘテ論議談  
 合ヲ重クスルニ容易ク決着セズ交渉時ヲ移シテ四時間  
 及ビ一時ノ寧々休戰地域界線ヲ劃定セラルルヲ提議セン  
 小セシモ若シ此界線ヲ定メスレテ單ニ戰闘行為ノミヲ  
 停止スルトキハ露國ノ艦船ハ任意ニ出動シテ我運送船  
 等ヲ脅カ得ルニ我々ハ毛頭得ル所ナキヲ以テ是亦界  
 線ヲ劃定スルノ必要ヲ認メ且ウ已ニ前提議ニ於テ露  
 國沿岸三海里以内ノ地帯ヲ彼レノ許容スル以上ハ多  
 少之ヲ擴張シテ露國ノ面目ヲ保タシムル是亦十歩百歩大

0765

差ナキヲ信シ露國委員ノ提出スル第二修正案ノ露國  
休戰地域ヲ一層縮サシ便宜ノ経緯度ニ依リ界線ヲ描  
キテ之ヲ提出セシ露國委員モ之ヲ多ク修正シ加テ  
先ハ同意スルコトナリ然レ最後至リ豆満江口附近  
於テ休戰地域境界ノ齟齬ヲ就キ露國委員ハ其端  
末ハ陸上休戰地域界線ノ端末ト一致スルヲ至当トス  
昔ヲ主張シ差シ海上ニテ其ノ地長ヲ定ムルハ陸上多ク  
陸軍側面ニ敵國艦艇ノ来ルカ如キ状態ヲ来スヲ以  
テ陸上休戰地域劃定ノ後之ヲ決定セトノ提議  
對シ我ハ海陸ノ作戰ハ必シモ一致セラルヲ以テ海上ハ海  
軍ノミテ定ムルヲ至当トシ且ソ陸上休戰地域界線ノ  
劃定ヲ待ツトモ本全項ハ未ダ不定ノモノニテ本日ヨリ  
之ヲ實施スル能ハルノ不便ヲ残スヲ以テ且之亦此之ヲ

0766

未定スキコトヲ主張シ露國委員ノ隨員浦沿要塞陸  
軍參謀長ブードベルグ大佐等ハ類リ之ニ反對セシ本  
職之ニ應ズ次テ露國委員ハ業經四十度ノ俾係ニ依ラ  
ンコトヲ申出テシ我邦之ヲ任ケ更ニ露國委員ヲ本國  
ノ訓令止レ難キトコロアルヲ以テ妥協アルコトヲ請ホシ  
テ我方ヲミサシテ議弁シ今四ノ屬全地兵羅津浦ノ  
東南ノロシヤシフ角ト決定スルコトニ一致セリ

又向宮海峡ノ最狹部ノ中立地帯トシテ決定セリ  
以上ノ決議ニ依リ決定スル海上休戰地域界線ハ即チ  
下記ノ本協約局規定ニテナルモノナリ

③ 第三條ノ決議

本職ハ第三條ハ第三條ニ於ケル休戰地域界線決定ト  
共ニ自他兩域ス（キセノ）ヲ以テ露國委員ニ同意

0767

ニテ全条削除ニ決定ス

(四) 第四条ノ涉議

露國委員ハ先ツ休戰中兩交戦國ノ艦船カ敷設水雷ニ罹ルコトアルカ如キハ休戰ノ主旨ニ背スルヲ以テ宜シク今日相通知シテ相互ノ危害ヲ減サスヘキモノナリト主張シ之ニ對シ本職ハ休戰ハ交戦ノ終結ヲ意味スルモノトシテ且ハ本条敷設水雷ノ位置ヲ相通知スルモノハ平和克復ノ後ニスルヲ至当トシ已ニ此件ニ関シテ我政府ハ平和克復ノ後之方々彼我委員ノ會合地英及期日ヲ定ムル涉議アリタル筈ナリトシテ露國委員モ之ニ同意シ全条削除ニ決定ス

(五) 第五条ノ涉議

本職ハ第三条休戰地域界線ノ劃定セ先以上ハ



本条規定、必要を以て之を削除し、露國委員モ之を同意し  
全条削除を決定ス

(六) 第六条ノ涉議

露國委員ハ薩哈連島居民ノ情況ヲ以テ貴國ノ運送船ハ  
此等窮民ヲ救済シカストリシ津ヲ移シアルモ各地糧食モ  
家屋モナク却テ其窮困ヲ増加スルノ實状ナル人道基キ  
露國運送船ヲ之ヲニコライフスクニ移スルニ同意ヲホメ  
ケルモ本職ハ個人トシテ之ニ同情ヲ表スルモ此ノ弊ヲ正シ  
委員ノ権限以外ニ巨額ヲ以テ露國政府ト政府ト交渉  
ニ事アルヲ至当トスル旨ヲ以テ露國委員モ之を同意シ  
全条削除を決定ス

(七) 第七条ノ涉議

露國委員ハ先ツ堪察加半島ノ住民ガ已ニ三年間

糧食及日用品等供給ヲ受ラザル者ハ非常ノ窮乏ニ  
 瀕シ而カモ今右三週間ヲ経過セシ海上ノ交通杜絶ス  
 是等ノ住民ハ餓死スヘキヲ以テ本邦ハ人道ニ是亦共同  
 意ヲ得シト述ヘ本職ハ之ニ對シ大ニ同情ヲ表セタ  
 是亦前奉トシ公標梅隈以外ニ且ルヲ以テ本國ノ綿着  
 ノ後此件ニ孰キ充分ノ尽力スヘキ旨ヲ述マタルモ露國  
 委員ハ海上ノ交通直ニ杜絶スヲ以テ此ノ如キ餘裕ヲ  
 存セズ且ツ毛頭作戰上ニ關係セザルトナシ人道ニ  
 甚キ貴官ノ責任ヲ以テ之ヲ認諾アリタシト切願ス  
 以テ本職ハ遂ニ休戰奉件トシテ之ヲ規定スルヲ拒  
 絶シ本職自ラ責任ヲ負ヒテ浦ヲ斯德ヨリ常々  
 海峡ヲ通過シテトロバプロフスコノ港ニ至ル糧食及日  
 常品ノミヲ搭載セシ露國運送船一隻ノ通行免状ヲ

英附之ルトシ露國委員モ之ト満足ヲ表シ本条全条  
削除ニ決定ス

(八) 第八條ノ涉議

本職ハ本条ハ休戦ニ何等ノ關係ヲ有セス余ノ向題  
以升ノ事ニシテ其ニ之ヲ協定スヘキノ限リニアラス且以假  
令本条ヲ規定シ西之戰國ノ一港ヲ指定シテ交戰敵  
國領事ノ證明書ヲ得タル中立國船舶ノ拿捕ヲ免  
許スルトスルモ浦沙斯德ガ軍港タル限リ之ヲ輸入スル貨  
物ハ大抵戰時禁制品ニシテ一品タリトモ禁制品アル其  
船舶ハ拿捕サルベキモノトス故ニ本条如キハ之ヲ設クンモ  
強シド無効ナルベキヲ述ベタルニ露國委員モ之レニ  
同意シ全條削除ニ決定ス

以上露國提出案公条ノ涉議ノ要領ニシテ我提出案

ニ対スヘキ第二章ノ決定ノ外日韓ノ各項ハ皆削除シテ後  
ニ交渉ヲナリ最後ニ本協約ハ本日ヨリ実施スル事ト協定  
セリ

四、協約書ノ署名及會見ノ結了

海上休戦地域劃定ノ會議ハ此ニ全ク結了シ其決議  
ニ基キ露國委員ノ隨員ト其協約書ヲ起草シ我  
隨員ト之ヲ檢査シ文章上ニ於テ多ク修正ヲ加ヘ身  
向宮海峽ト中立トシ西支戰國ノ艦船ト共通トスル規定中  
ヨリ「西支戰國ノ艦船ト共通トスル」文句ヲ削除セリ且レ  
後日我カ便宜ニ從フテ解釋スル利益ト認メタルヲ以テナリ  
然レ後之レヲ復通シ隨書シ當日午後三時彼我協定  
委員ト之ト署名セシ各其一通ヲ取リ合時ニ彼我全權  
委任状ヲモ交換セリ即チ別紙ノ如シ

0772

次ニ彼我委員盍ヲ集メテ會見シテ相祝シテ散會  
 シ本職ハ我旗艦ニ舛リ次テ「エッセ」ノ訪向ヲ受ケテ  
 告別シ午後三時五分當隊ハ羅津浦港外ヲ發シ歸  
 途ニ就ケリ

其會見ニ參列セシ委員及隨員ノ人名左如シ

帝國 委員 島村海軍少將

隨員 秋山海軍中佐

隨員 山本海軍大尉

隨員 「エッセ」海軍少將

隨員 艦隊司令官

隨員 浦田要長

隨員 參謀長

隨員 艦隊參謀

外露國 總領事(前橫濱駐在)及 岸部 彦

右參列

三

(了)

0773

「エツセン」少將委任状（原書佛文）

侍從武官海軍少將エツセン閣下ニ呈ス

陸海軍總指揮官リネーウィツチ閣下ノ命ニ依リ閣下ハ

海上於ケル休戦ノ條件ヲ確定シ總指揮官ノ認可ヲ

要セスレテ自カラ議定書ニ記名スルヲ日本帝國海軍

總司令官東郷大將閣下ノ代表者タル島村少將上層

議スルノ権能ヲ委任セラル

千九百零九年九月十日（露曆）

浦塩斯德要塞指揮官

陸軍中將 某 自署

0774

海上休戦地域劃定之南ニル協約書

一各軍隊總指揮官ヨリ代表者トシテ相当ノ委任ヲ受ケ  
下ニ署名シタル島村海軍少將及武蔵ノ海軍少將ハ左如ク  
協約セリ

交戦國ノ海岸ニ沿ヒ左ノ如ク海上ヲ区劃ス

即チ界線ハロヂヲソウノ角ヨリ起リ南東ニ廿哩ヲ走リ  
北緯四十二度東至百三十六度ノ地矣北緯四十六度東  
至百四十四度ノ地矣北緯四十八度東至百四十四度ノ地矣北  
緯五十度東至百四十四度三分三厘ノ地矣北緯五十五度四  
十分東至百四十四度三分三厘ノ地矣等ヲ連接スルモノニ  
シテ此ヨリ北緯三十三度三分七厘東至百四十一度七分  
半ノ地矣ニ至ル間ニ海峽ノ最狹部ハ中立地帯ト爲  
ス再ビ北緯五十三度七分東至百四十一度七分半

ノ地兵云起リ業緯五十六度東至百四十三度ノ地兵業  
緯五十六度東至百零八度ノ地兵業ヲ經占守海  
峽ノ中央地兵ヲ過キ業緯五十九度五十分ノ距等圖ニ  
合ス

向官海峡ノ最狭部ハ中立地帯トス  
西支戰國ノ海軍ハ互ニ前記ノ界線ヲ越ユルヲ許サズ  
林決議ハ署名ノ当日ヨリ実施シ休戰期間其効力  
ヲ有スルモノトス

各代表者ハ此議定書ニ署名シ之ヲ證ス  
西曆千九百五年八月十八日

島村海軍少將 (自署)  
及セシ海軍少將